

マスコミ各位

平成29年7月13日（木）

沖縄県保健医療部地域保健課 結核感染症班

担 当：山内、仁平

電 話：098-866-2215

夏休みにおける感染症対策について

夏休みは外出する機会が増え、レジャーなど野外活動を行う方や海外へ渡航される方も多くなる時期です。夏休みを感染症にかかることなく、安全で快適に過ごすことができるよう、県内や海外で注意すべき感染症及びその予防対策について、情報提供します。

1 インフルエンザ及びRSウイルス感染症

平成29年7月5日及び7月7日付けで、県内のインフルエンザ及びRSウイルス感染症患者が増加している件について情報提供をしておりますが、第27週（7月3日～7月9日）においてもその傾向は継続しています。

インフルエンザの定点あたり患者報告数は第26週（6月26日～7月2日）の8.14人から8.79人（保健所別定点あたり患者報告数：北部1.00人、中部8.75人、南部13.71人、宮古2.75人、八重山0.67人、那覇市10.42人）、RSウイルス感染症の定点あたり患者報告数は3.65人から3.94人（保健所別定点あたり患者報告数：北部15.33人、中部2.92人、南部2.63人、宮古1.50人、八重山6.50人、那覇市2.29人）と増加しています。

県民の皆様におかれましては、引き続き「手洗い」や「咳エチケット」などの感染予防策を徹底していただきますようお願いいたします。

2 レプトスピラ症

レプトスピラ症は、病原性レプトスピラを起因病原体とする感染症です。病原性レプトスピラは、ネズミやマングースなど野生動物の腎臓に潜んでおり、尿中に菌が排せつされ、それにより汚染された土壌や水と接触する際に、皮膚の傷、鼻や目の粘膜を通して感染します。ヒトからヒトへの感染はありません。

県内では、主に河川でのレジャー等の際に感染したと考えられる患者の発生が多く、8月、9月が発生のピークとなります。2017年は7月12日時点で2件の報告があり、いずれも西表島の水田が感染源と推定されています。

臨床症状：頭痛、発熱（38℃以上）、筋肉痛、結膜充血。重症になると、腎機能障害、黄疸などの症状が現れ、治療しないと死に至ることもある。

潜伏期間：3～14日

治 療：ペニシリンやストレプトマイシンなどの抗生物質が有効とされている。

感染症法分類：4類感染症

【予防方法】

1. 皮膚に傷がある場合は感染しやすくなることが知られているため、河川での遊泳を控える。
2. 河川や滝などの生水はそのまま飲まない。
3. 水田、山林で作業をする場合は、長靴や手袋を使用し、土や水との直接的な接触を避ける。
4. 河川や滝、水田での水との接触後に手洗いを行う。
5. 捕獲したネズミなど、素手での野生動物との接触をさける。

※川遊びをした後や、畑、水田、山林などで作業した後、3～14日以内に発熱、頭痛、筋肉痛などの症状がでたら、すぐに医療機関を受診し、川遊びなどの状況を伝えてください。

【注意喚起のお願い】

県では、レプトスピラ症の予防を図るため、別添チラシを作成し、関係機関へ配布をしております。マスコミの皆様もレプトスピラ症の予防等の周知について、ご協力いただきますようお願いいたします。

※チラシは、後日、沖縄県衛生環境研究所ホームページからダウンロードができる予定です。

<http://www.pref.okinawa.jp/site/hoken/eiken/eisei/leptospira.html>

【参考】レプトスピラ症発生状況

年	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
全国	1	18	17	24	35	42	16	22	26	30	29	48	33	76
沖縄	0	7	7	4	21	28	7	10	7	6	7	28	13	43

※レプトスピラ症は2003年11月に4類感染症に指定

※2016年に沖縄県以外から報告された33件のうち9件は、沖縄県での感染が考えられている
県外旅行者

3 ダニ媒介性感染症

県内ではこれまでに「つつが虫病」、「日本紅斑熱」及び「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）」の発生が確認されています。

【つつが虫病】4類感染症

つつが虫病は、つつが虫病リケッチア（*Orientia tsutsugamushi*）を起因病原体とし、山野に入り病原体を保有するダニ（ツツガムシ）に刺されて感染する。ヒトからヒトへの感染はない。

臨床症状：発熱（38℃以上）、リンパ節腫脹、発疹、刺し口。

潜伏期：5～14日

治療：テトラサイクリン系の抗生物質等による治療。一般に予後良好。

発生状況：我が国では北海道を除く全都府県から患者が報告され、ここ数年は年間300～400人の患者が毎年報告されている。

県内では宮古保健所管内において発生がみられ、2017年は7月12日時点で2

件が報告されている。これまでの発生時期は4～7月及び9～12月。

【日本紅斑熱】 4類感染症

日本紅斑熱は、リケッチア・ジャポニカ (*Rickettsia japonica*) を起因病原体とし、病原体を保有するマダニに刺されて感染する。ヒトからヒトへの感染はない。

臨床症状：高熱、発疹、刺し口が主要な徴候。

潜伏期：2～10日

治療：本症を早期に疑い適切な抗菌薬（テトラサイクリン系の抗生物質等）を投与することが極めて重要。

発生状況：我が国では特に太平洋側の温暖な地域にみられ、発生時期に地域差がみられるものの、全国的に春～秋の長い間注意が必要である。

県内では沖縄本島において2010～2012年に3件、2017年は7月12日時点で北部保健所管内より1件が報告されている。これまでの発生時期は3～4月及び11月。

【重症熱性血小板減少症候群（SFTS）】 4類感染症

SFTS は、SFTS ウイルスを起因病原体とし、病原体を保有するマダニに刺されて感染するのが主だが、患者血液・体液との接触による感染も報告されている。

臨床症状：発熱、消化器症状（食欲低下、嘔気、嘔吐、下痢、腹痛）が多くの症例で認められ、その他頭痛、筋肉痛、意識障害や失語などの神経症状、リンパ節腫脹、皮下出血や下血などの出欠症状など

潜伏期：6～14日

治療：対症療法。致死率は6.3～30%と報告されている。

発生状況：我が国では西日本を中心に、平成29年7月2日の時点で269名の患者が報告されている。

県内では沖縄本島において、2016年8月に県内初事例が報告されている。

【予防方法】：ダニに咬まれないことが重要です。

1. 山野に入る際には、肌の露出を少なくし、防虫スプレーを適宜使用する。
2. むやみに地面に腰を下ろしたり寝転んだりしない(座る時は敷物を使う)。
3. 脱いだ服を草むらに放置しない。
4. 帰ったらすぐに入浴(シャワー)する。
5. 着用した服は使い回さず、その日で洗濯する。
6. 山林や野原に立ち入って1～2週間後に発疹や発熱の症状が現れたら、すぐに医療機関で受診する。
7. 吸血中のダニを見つけた時は、無理に取ろうとするとダニの一部が皮膚内に残る可能性がある。

るので、できるだけ医療機関で処置を行う。

【参考】県内のダニ媒介感染症発生状況

	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	合計
つつが虫病	1		1	2		1	2	4	10	21
日本紅斑熱			1	1	1					3
SFTS									1	1

※「つつが虫病」は2008年、「日本紅斑熱」は2010年、「SFTS（重症熱性血小板減少症候群）」は2016年が県内初報告例

4 海外に行かれる方へ

日本国内では排除認定されている麻しんや、国内ではみられない動物及び蚊・ダニなどが媒介する感染症が流行している地域があります。まずは事前に現地の感染症の発生状況を調べ、上述した対策に加え、下記の対策をとるようにお願いします。

1. むやみに動物にふれない。
2. 生の食べ物、水は飲食しない。
3. 予防接種が受けられる感染症に対しては、事前に医療機関に相談する。
4. 食事の前や宿泊施設へ戻った際には、必ず「手洗い」「うがい」をする。
5. 防虫スプレーの使用や長袖の着用など、蚊、ダニへの対策を行う。

また、帰国時に体調に不安がある方は検疫担当係官へ相談し、帰国後に体調を崩された方は、早期に医療機関を受診し、渡航先や現地での活動内容などを報告するようにしてください。

5 県内外の感染症情報について

厚生労働省「夏休みにおける海外での感染症予防について」

http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/travel-kansenhou.html

厚生労働省検疫所 <http://www.forth.go.jp/>

国立感染症研究所感染症疫学センター <http://www.nih.go.jp/niid/ja/from-idsc.html>

沖縄県感染症情報センター

<http://www.pref.okinawa.jp/site/hoken/eiken/kikaku/kansenjouhou/home.html>

…もしかして!



肉痛 目の充血
痢 頭痛

ラ症かも?

その症状…



発熱 筋
 嘔吐 下

レプトスピ



で感染!?
レプトスピラ症



レプトスピラ症にご注意



沖縄県衛生環境研究所HP

お問い合わせ

北部保健所	TEL:0980-52-5219
中部保健所	TEL:098-938-9701
南部保健所	TEL:098-889-6591
宮古保健所	TEL:0980-73-5074
八重山保健所	TEL:0980-82-4891
那覇市保健所	TEL:098-853-7971
沖縄県保健医療部 地域保健課	TEL:098-866-2215



レプトスピラ症

沖縄県では、川遊びなどの際に感染することが多く、発熱、筋肉痛などのインフルエンザ様の症状が現れます。初診が遅れ、重症化すると肝臓や腎臓の機能障害を起こし、死に至ることもある感染症です。

川で遊ぶ前に、知ってほしい。 レプトスピラ症について

レプトスピラ症とは？

レプトスピラ症は細菌性の人獣共通感染症です。この病気の原因となるレプトスピラ菌は、感染した動物の尿中に存在します。人はこの尿や尿に汚染された水（淡水）、土壌に触れることで感染します。沖縄県ではネズミやイノシシ、マングースなどの野生動物が重要な保菌動物と考えられていますが、ウシ、ブタなどの家畜、イヌなどのペットも感染源となります。



レプトスピラ
電子顕微鏡写真
愛知医科大学
病原細菌学先生提供

レプトスピラ菌は、淡水中もしくは土壌中では長期間生存し、目や鼻、口、傷ついた皮膚から体に侵入し、感染します。

沖縄県月別患者数(2008年~2016年)



患者発生のピークは8月・9月です。
冬季でも感染例はあります。

地域別患者発生数(2008年~2016年)

八重山地域 石垣島・西表島 など	宮古地域 宮古島・多良間島 など	沖縄本島 大島 57例 島尻 3例 中島 2例 下島 7例
66例	0例	79例

野生動物が多く、川でのレジャーが盛んな地域で、患者が発生しやすくなっています。

症状



- 感染すると約3~14日後に発症します。
- 初めはインフルエンザによく似た症状がでます。

すぐに病院を受診しましょう。



医師に「川に入った」ことを必ず教えてください。

治療が遅れると重症化し、最悪の場合、死に至ることもあります。県内での死亡事例もあります。

感染機会

感染経路図



何をしている時に感染する？

- 川や池、滝などの淡水での遊泳、トレッキング、釣り、カヌー
- 農作業・ガーデニング
- 感染した動物の尿との接触

近年では、川でのレジャーが感染機会の大部分を占めています。お仕事やレジャーで川に入る機会のある方、特にレジャーガイドの方は注意が必要です。

沖縄県の感染者の約80%は川でのレジャー・労働が原因です。

気をつけてほしいこと

川遊びをする方へ

- 1 擦り傷や切り傷がある場合は、川での遊泳やレジャーを控えましょう。
- 2 川遊びをする際は、体に傷をつくらぬよう適切な服装を心掛けましょう。



- 3 川の水はそのまま飲まないようにしましょう。
- 4 川へ入った後、疑わしい症状が出たら、すぐに医療機関を受診し、医師に川に入ったことを教えてください。

レジャーガイド及び引率者の方へ

川へ入る前にレプトスピラ症について、レジャー参加者の方へ説明をお願いします。